



Sun Fire™ X4140、X4240、 および X4440 サーバー ご使用にあたって

Sun Microsystems, Inc.
www.sun.com

部品番号 820-5227-11
2008 年 7 月、改訂 A

本書についてのご意見・ご感想は、<http://www.sun.com/hwdocs/feedback> のフォームを使って弊社までお送りください。

Copyright © 2008 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

未公開 - 本製品に関する権利は、米国著作権法により保護されています。

本製品には Sun Microsystems, Inc. の機密情報および企業秘密が含まれています。Sun Microsystems, Inc. の書面による事前の許可なく使用、公開、または複製することを禁じます。

本製品にはサードパーティーによって開発された素材が含まれている可能性があります。

Sun, Sun Microsystems, Sun のロゴマーク、Java, Solaris, Sun Fire 4140, Sun Fire 4240, Sun Fire 4440 は、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

AMD Opteron および Opteron は、Advanced Micro Devices, Inc. の商標です。Intel は、Intel Corporation の登録商標です。

本製品は、米国輸出管理法の対象であり、これらの法律により管理されます。また、その他の国の輸出または輸入に関する法律の対象となる可能性があります。原子力、ミサイル、生物化学兵器、または海洋核戦力の最終用途での本製品の使用、またはそれらに携わるエンドユーザーによる本製品の使用は、直接あるいは間接を問わず、固く禁じられています。米国の通商禁止国または輸出禁止リストに掲載されている団体、禁止対象の個人や特別に指定された国の国民などに対する輸出または再輸出は固く禁じられています。

CPU の予備品または交換品の使用は、米国の輸出法に準拠して輸出された製品の CPU の修理または 1 対 1 での交換に限り許可されています。米国政府の許可を得ることなく、製品のアップグレード目的で CPU を使用することは、固く禁じられています。

Copyright © 2008 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, Etats-Unis. Tous droits réservés.

Non publie - droits réservés selon la législation des Etats-Unis sur le droit d'auteur.

CE PRODUIT CONTIENT DES INFORMATIONS CONFIDENTIELLES ET DES SECRETS COMMERCIAUX DE SUN MICROSYSTEMS, INC. SON UTILISATION, SA DIVULGATION ET SA REPRODUCTION SONT INTERDITES SANS L'AUTORISATION EXPRESSE, ECRITE ET PREALABLE DE SUN MICROSYSTEMS, INC.

Cette distribution peut inclure des éléments développés par des tiers .

Sun, Sun Microsystems, le logo Sun, Java, Solaris et Sun Fire 4140, Sun Fire 4240, and Sun Fire 4440 sont des marques de fabrique ou des marques déposées de Sun Microsystems, Inc. aux Etats-Unis et dans d'autres pays.

AMD Opteron et Opteron sont marques déposées de Advanced Micro Devices, Inc. Intel est une marque déposée de Intel Corporation

Ce produit est soumis à la législation américaine sur le contrôle des exportations et peut être soumis à la réglementation en vigueur dans d'autres pays dans le domaine des exportations et importations. Les utilisations finales, ou utilisateurs finaux, pour des armes nucléaires, des missiles, des armes biologiques et chimiques ou du nucléaire maritime, directement ou indirectement, sont strictement interdites. Les exportations ou reexportations vers les pays sous embargo américain, ou vers des entités figurant sur les listes d'exclusion d'exportation américaines, y compris, mais de manière non exhaustive, la liste de personnes qui font objet d'un ordre de ne pas participer, d'une façon directe ou indirecte, aux exportations des produits ou des services qui sont régis par la législation américaine sur le contrôle des exportations et la liste de ressortissants spécifiquement désignés, sont rigoureusement interdites.

L'utilisation de pièces détachées ou d'unités centrales de remplacement est limitée aux réparations ou à l'échange standard d'unités centrales pour les produits exportés, conformément à la législation américaine en matière d'exportation. Sauf autorisation par les autorités des Etats-Unis, l'utilisation d'unités centrales pour procéder à des mises à jour de produits est rigoureusement interdite.

Sun Fire X4140、X4240、および X4440 サーバーご使用にあたって

本書では、Sun Fire™ X4140、X4240、および X4440 サーバーに関する最新情報と注意事項を説明します。

本書で説明する注意事項は次のとおりです。

- 「サポートされているオペレーティングシステム」 (2 ページ)
- 「Sun Installation Assistant (SIA)」 (2 ページ)
- 「ツールとドライバの CD」 (3 ページ)
- 「最新のファームウェアアップデート」 (3 ページ)
- 「オプションのソフトウェア」 (3 ページ)
- 「ハードウェア、ファームウェア、および BIOS の注意事項」 (7 ページ)
- 「システム管理とサービスパロセッサの注意事項」 (16 ページ)
- 「Solaris に関する注意事項」 (25 ページ)
- 「Linux に関する注意事項」 (29 ページ)
- 「VMware の注意事項」 (38 ページ)
- 「Windows の注意事項」 (40 ページ)
- 「MegaRAID Storage Manager (MSM) の注意事項」 (46 ページ)
- 「ドキュメントの修正点」 (48 ページ)

サポートされているオペレーティングシステム

Sun Fire サーバーでサポートされるオペレーティングシステムの詳細な一覧については、次の Sun™ Web サイトを参照してください。

- <http://www.sun.com/servers/x64/x4140/os.jsp>
- <http://www.sun.com/servers/x64/x4240/os.jsp>
- <http://www.sun.com/servers/x64/x4440/os.jsp>

Sun Installation Assistant (SIA)

Sun Installation Assistant (SIA) は、サーバーのオペレーティングシステムのインストールに役立つブート可能なツールです。SIA には、次の機能があります。

- システムのハードウェアを識別し、OS のインストールに必要な Sun サーバードライバを準備します。SIA を使用することにより、ドライバ CD を作成する手間が省けます。
- システム BIOS、SP ファームウェア、インストールされているデバイスファームウェアのアップグレード、アクセスできない SP の修復などに使用できるツールを提供します。使用できるツールはシステムに応じて異なる可能性があります。
- OS ベンダーのネイティブのインストールプログラムを起動します。
- OS のインストール処理中に、適切なドライバとプラットフォーム固有のソフトウェアを識別し、インストールします。

サーバーで使用可能な初期 SIA メディアイメージのバージョンは 2.0.146 です。サーバー用の最新のイメージ (CD または USB フラッシュドライブ用) は、次の Web サイトからダウンロードできます

- <http://www.sun.com/servers/x64/x4140/downloads.jsp>
- <http://www.sun.com/servers/x64/x4240/downloads.jsp>
- <http://www.sun.com/servers/x64/x4440/downloads.jsp>

ツールとドライバの CD

ツールとドライバの CD には、サーバー用の Sun のドライバとオプションのソフトウェアが収録されています。これらのソフトウェアによって、サーバーで実行するさまざまなオペレーティングシステムを選択できるようになります。また、サーバーの機能を管理・拡張するツールもあります。

初期のツールとドライバの CD のバージョンは 1.0 です。サーバー用の最新バージョンのツールとドライバの CD は、次のサイトからダウンロードできます。

- <http://www.sun.com/servers/x64/x4140/downloads.jsp>
- <http://www.sun.com/servers/x64/x4240/downloads.jsp>
- <http://www.sun.com/servers/x64/x4440/downloads.jsp>

最新のファームウェアアップデート

Sun Fire X4140、X4240、X4440 の各種サーバーの最新のファームウェアアップデートは、システムに付属の Sun Installation Assistant (SIA) の CD に収録されています。また、Sun Installation Assistant (SIA) ソフトウェアの最新バージョンは、次の Web サイトからダウンロードすることもできます。

- <http://www.sun.com/servers/x64/x4140/downloads.jsp>
- <http://www.sun.com/servers/x64/x4240/downloads.jsp>
- <http://www.sun.com/servers/x64/x4440/downloads.jsp>

オプションのソフトウェア

サーバーではオプションのソフトウェアを使用できます。一部のソフトウェアは、プリインストールされているか、ダウンロードするか、オプションとして購入できます。ツールとドライバの CD には、オプションのソフトウェアツール (suncfg、cfggen、MegaRAID Storage Manager、StorageTek RAID Manager、SNMP ユーティリティ、Disk FRU ユーティリティ) も収録されています。次に、これらのオプションソフトウェアのコンポーネントについて説明します。

- 「Solaris™ 10 オペレーティングシステム」(4 ページ)
- 「Sun Java™ Enterprise System」(4 ページ)
- 「suncfg ユーティリティ」(5 ページ)
- 「LSI cfggen ユーティリティ」(5 ページ)
- 「MegaRAID Storage Manager (LSI)」(5 ページ)
- 「LSI SNMP ユーティリティ」(6 ページ)
- 「ディスク FRU ユーティリティ (dfруд)」(6 ページ)

Solaris™ 10 オペレーティングシステム

Solaris 10 オペレーティングシステム (OS) は、IT 担当者がサービスレベルを向上させ、コストやリスクを抑えるために必要なセキュリティ、管理の容易性、パフォーマンスを提供します。また、統合型のオープンな標準ベースのソフトウェアシステム、Sun Java™ Enterprise System の基盤としても機能します。このシステムでは、開発、テスト、サービスを予測可能な新しいアプローチで行います。Solaris OS は、サーバーにプリインストールされています。

Solaris 10 OS を削除してから再インストールする必要がある場合は、DVD イメージをダウンロードできます。

DVD イメージは、次のサイトからダウンロードしてください。

<http://www.sun.com/software/downloads>

Solaris 10 OS のオンラインドキュメントは、次のサイトにあります。

<http://docs.sun.com/>

Solaris で GRUB ベースのブートのサポートを追加

Solaris 10 1/06 OS リリースから、Solaris OS を実行している x86 ベースのシステムでオープンソースの GNU Grand Unified Bootloader (GRUB) が実装されました。GRUB は、ブートアーカイブをシステムのメモリに読み込むブートローダです。ブートアーカイブは、システムのブートに必要なカーネルモジュールと設定ファイルを含んでいます。GRUB については、`grub(5)` のマニュアルページを参照してください。

GRUB ベースの環境で Solaris 10 1/06 OS を実行するサーバーの起動方法については、『Solaris のシステム管理 (基本編)』を参照してください。

Sun Java™ Enterprise System

Sun Java Enterprise System (Java ES) は、ネットワークやインターネット環境を通じて配布されるエンタープライズ規模のアプリケーションのサポートに必要なサービスを提供するソフトウェアコンポーネントです。Java ES は、サーバーにプリインストールされています。

Java ES のオンラインドキュメントは、次のサイトにあります。

<http://docs.sun.com/>

suncfg ユーティリティ

このユーティリティは、自動展開に便利な SP と BIOS 設定タスクを実行します。詳細については、『*x64 Servers Utilities Reference Manual* (x64 サーバーユーティリティリファレンスマニュアル)』(820-1120) を参照してください。

HERD (Hardware Error Report and Decode) ユーティリティ

HERD は、修正可能なハードウェアエラーを監視、デコード、レポートするためのツールです。詳細については、『*x64 Servers Utilities Reference Manual* (x64 サーバーユーティリティリファレンスマニュアル)』(820-1120) を参照してください。

LSI cfggen ユーティリティ

cfggen ユーティリティは、内部ドライブの Integrated Mirroring (IM) を管理します。『*x64 Servers Utilities Reference Manual* (x64 サーバーユーティリティリファレンスマニュアル)』(820-1120) を参照してください。

MegaRAID Storage Manager (LSI)

MegaRAID Storage Manager (MSM) は適切なライブラリやドライバで動作するので、Sun StorageTek SAS 8-Port Internal Host Bus Adapter (LSI 3081E-S ベース)、部品番号 SG-XPCIE8SAS-I-Z または SG-PCIE8SAS-I-Z のストレージ設定の設定、監視、維持を行えます。グラフィカルユーザーインターフェイス (GUI) を使用すると、ストレージ設定を容易に作成・管理できます。このアプリケーションは、ツールとドライバの CD や製品ダウンロードサイトのツールとドライバの CD イメージから利用できます。

MSM を使用すると、システムのコントローラ、ディスクドライブ、および仮想ディスクを容易に設定できます。設定ウィザードでは、ディスクグループや仮想ディスクの作成プロセスが大きく簡素化されます。このウィザードの手順に従えば、ストレージ設定を簡単に作成できます。

LSI RAID アプリケーションの詳細については、次の Web サイトのオンラインドキュメントを参照してください。

<http://docs.sun.com/app/docs/prod/sf.x4440~sf-hba>

詳細は、『*LSI 106x RAID User's Guide* (LSI 106x RAID ユーザーズガイド)』(820-4933) を参照してください。

StorageTek RAID Manager (Adaptec)

Sun StorageTek RAID Manager 設定セットアップユーティリティ (Adaptec ベース) は、適切なライブラリやドライバで動作するので、Sun StorageTek SAS RAID Eight-Port Internal Host Bus Adapter (Adaptec ベース)、部品番号 SG-XPCIESAS-R-INT-Z、SG-PCIESAS-R-INT-Z のストレージ設定の設定、監視、維持を行えます。グラフィカルユーザーインターフェイス (GUI) を使用すると、ストレージ設定を容易に作成・管理できます。このアプリケーションは、ツールとドライバの CD や製品ダウンロードサイトのツールとドライバの CD イメージから利用できます。

StorageTek RAID Manager の詳細については、次の Web サイトのオンラインドキュメントを参照してください。

<http://docs.sun.com/app/docs/prod/sf.x4440~sf-hba>

LSI SNMP ユーティリティ

LSI (SAS-IR) SNMP ユーティリティは、リモートステーションから SAS 接続経由で MSM アクティビティをモニタするために使用します。このユーティリティは、ツールとドライバの CD や製品ダウンロードサイトのツールとドライバの CD イメージから利用できます。

これらのサーバーは、Windows Server 2003 OS または Linux 上で LSI SNMP ユーティリティをサポートします。

LSI SNMP ユーティリティの詳細については、『*x64 Servers Utilities Reference Manual* (x64 サーバーユーティリティリファレンスマニュアル)』(820-1120) を参照してください。

ディスク FRU ユーティリティ (dfруд)

Disk FRU ユーティリティ (dfруд) は、Red Hat または SuSE Linux 対応の Sun Fire X4140、X4240、および X4440 システムソフトウェアリリースに含まれるデーモンです。dfруд は、ディスク FRU (Field Replaceable Unit) データをローカル SP (サービスプロセッサ) に報告します。このユーティリティは、追加・削除されたドライブを検出し、必要に応じて FRU データを更新します。

dfруд はインストールすると独自に実行されます。このユーティリティは、ディスク FRU 情報を収集して報告します。また、ローカルサービスプロセッサを 15 分ごとにポーリングして、SP がリセットされたかどうかを確認し、リセットされた場合は、dfруд が SP にディスク FRU 情報を再作成します。追加・削除された物理ディスクの FRU データも適切に追加・削除されます。

dfруд の詳細については、ツールとドライバの CD のユーティリティに含まれている Readme ファイルを参照してください。

ハードウェア、ファームウェア、および BIOS の注意事項

次の注意事項は、ハードウェア、ファームウェア、または BIOS に適用されます。

- 「Sun Fire X4240 サーバーがディスクを認識しない場合がある (6697760)」 (8 ページ)
- 「Sun Fire X4440 の BIOS で、Sun Fire X4240 のラベルが表示される (6689691)」 (8 ページ)
- 「Sun StorageTek SAS 8-Port Internal HBA のファームウェアバージョン」 (8 ページ)
- 「Sun StorageTek SAS RAID Eight-Port, Internal HBA のファームウェアバージョン」 (9 ページ)
- 「PCI スロット番号の優先順位 (6581606)」 (9 ページ)
- 「OS インストーラがハードディスクドライブを認識しない (6549807)」 (9 ページ)
- 「HBA カードを交換するとディスクの番号が変わる場合がある (6564803)」 (10 ページ)
- 「Sun Fire X4440 サーバーの LSI Internal SAS HBA のポート 1 は使用しないでください」 (10 ページ)
- 「LED の動作がドキュメントの説明と異なる (6580675)」 (10 ページ)
- 「LSI HBA を装着した Sun Fire X4240 サーバーは、RAID アレイの 16 台のハードディスクドライブのうち 14 台しか使用できない (6613780)」 (11 ページ)
- 「ボリュームの再同期が進行中に別のボリュームからドライブを削除すると、再同期が最初から開始される (6584821)」 (11 ページ)
- 「トラフィックが多いと Ethernet アクティビティライトが点灯したままになる (6630669)」 (11 ページ)
- 「PCI-e オプションカードを追加すると、他のカード上のデバイスや内蔵デバイスをブートできない (6639184)」 (12 ページ)
- 「すべての PCI-e カードオプションの ROM (OpROM) を無効にすると、システムが機能しなくなる (6678276)」 (12 ページ)
- 「RAID 再同期操作中にハードディスクを取り外さないこと (6604060)」 (13 ページ)
- 「KVM に挿入されている PS/2 方式のキーボードが POST 中に応答しない (6600715)」 (13 ページ)
- 「Intel D33025 PRO/1000 PT Desktop Adapter ではネットワークブートができません (6663738)」 (13 ページ)
- 「PIRQ Tables で存在しないエントリのエラーが生成される (6609245)」 (14 ページ)
- 「CD または外部のブート可能なデバイスから Sun Fire X4240 サーバーを起動できない (6669327)」 (14 ページ)
- 「複数の OpROM カードを取り付けると MPTBIOS および Linux ブートエラーメッセージが表示される (6667530)」 (14 ページ)
- 「POST 中にエラーメッセージが表示され、F1 キーを押すまで再開を待機する (6680490)」 (15 ページ)
- 「AMD Erratum 326: 整列していない読み込み操作によりプロセッサコアがハングする可能性がある (6682358)」 (15 ページ)
- 「解決された問題」 (15 ページ)

Sun Fire X4240 サーバーがディスクを認識しない 場合がある (6697760)

Sun Fire X4240 サーバーの LSI SAS エクスパンダでハードウェアリセットが適切に終了されない場合があります。電源の再投入後やハードウェアリセット後に、一部またはすべての内部ハードディスクがオペレーティングシステムで認識されない場合があります。

対処方法: この問題が発生した場合は、AC 電源を再投入するか、ハードウェアのリセットボタンをもう一度押します。対処方法を繰り返し実行しても問題が持続する場合は、Sun サービスにお問い合わせサポートを受けてください。

Sun Fire X4440 の BIOS で、Sun Fire X4240 のラベルが表示される (6689691)

Sun Fire X4440 サーバーでは、BIOS 表示で X4240 のラベルが表示されます。ただし、サービスプロセッサは正しい製品名を報告します。

Sun StorageTek SAS 8-Port Internal HBA のファームウェアバージョン

サーバーに Sun StorageTek SAS 8-Port Internal Host Bus Adapter (LSI 3081E-S ベース)、部品番号 SG-XPCIE8SAS-I-Z または SG-PCIE8SAS-I-Z が含まれる場合は、HBA の初期リリースのファームウェアや BIOS コードレベルが次のとおりであることを確認してください。

- ファームウェアバージョン 1.23.90
- mptbios バージョン 6.18.01

これ以降のバージョンであることを確認してください。この情報は、システム POST の際に表示されます。以前のバージョンを持っている場合は、Sun Installation Assistant (SIA) を実行して、ファームウェアを最新のバージョンにアップグレードしてください。

Sun StorageTek SAS RAID Eight-Port、Internal HBA のファームウェアバージョン

Sun Fire サーバーに Sun StorageTek SAS RAID Eight-Port Internal Host Bus Adapter (Adaptec ベース)、部品番号 SG-XPCIESAS-R-INT-Z または SG-PCIESAS-R-INT-Z が含まれる場合は、HBA の初期リリースのファームウェアコードレベルが次のとおりであることを確認してください。

■ ファームウェアバージョン 15583

これ以降のバージョンであることを確認してください。この情報は、システム POST の際に表示されます。以前のバージョンを持っている場合は、Sun Installation Assistant (SIA) を実行して、ファームウェアを最新のバージョンにアップグレードしてください。

PCI スロット番号の優先順位 (6581606)

Sun Fire X4140、X4240、X4440 の各種サーバーでは、PCI スロットをスキャンするブート順は 0、1、3、2、4、5 です。HBA (ホストバスアダプタ) をスロット 2 と 3 に取り付けている場合は、スロット 3 が優先されます。これが BIOS レベルで PCI スロットを識別する順序であり、変更はできません。

対処方法: ブート可能デバイスと共に HBA を取り付けているときは、この優先順位のしくみに注意してください。

OS インストーラがハードディスクドライブを認識しない (6549807)

Adaptec SG-XPCIESAS-R-IN-Z Integrated RAID コントローラカードは、デフォルトでオペレーティングシステムインストーラに対してドライブを表示しません。少なくとも 1 つのドライブで設定 (アレイボリュームの初期化と作成) を行うには、Adaptec BIOS ユーティリティを使用する必要があります。その後、オペレーティングシステムのインストールにドライブを使用できます。

物理デバイスはシステム BIOS で認識されます。

対処方法: まず、Adaptec BIOS ユーティリティ (システム POST の際に Ctrl-A キーを押してアクセス) を使用して、OS で認識させたいすべてのディスク上のアレイやボリュームを初期化・作成する必要があります。この操作を完了すると、オペレーティングシステムのインストールプログラムがディスクを認識するため、必要に応じて OS をインストールしたりボリュームを作成したりできます。ディスクの HBA BIOS レベルの初期化やパーティショニングのあとにリブートが必要な場合があります。

HBA カードを交換するとディスクの番号が変わる場合がある (6564803)

あるメーカーの HBA にディスクを接続していて、LSI HBA を Adaptec HBA (またはその逆) に交換するなど、別のメーカーの HBA に交換すると、交換後にドライブのマッピングが変わる可能性があります。これにより、システムがブートできなくなります。

対処方法: LSI HBA を Adaptec HBA (またはその逆) に交換したときに、HBA に接続しているケーブルを逆にしてディスクの番号を正しくします。

1. 使用していた HBA のチャンネル 0 に接続されていたケーブルを新しい HBA のチャンネル 1 に接続します。
2. 使用していた HBA のチャンネル 1 に接続しているケーブルを新しい HBA のチャンネル 0 に接続します。

Sun Fire X4440 サーバーの LSI Internal SAS HBA のポート 1 は使用しないでください

StorageTek SAS 8-Port Internal Host Bus Adapter (LSI 3081E-S ベース)、部品番号 SG-XPCIE8SAS-I-Z または SG-PCIE8SAS-I-Z を装着した Sun Fire X4440 サーバーは、内部 SAS ケーブルを PCIe HBA カードのポート 0 から 16-ディスクバックプレーン (コネクタ J0302) に接続して設定されています (工場出荷時)。HBA カードのポート 1 へのケーブル接続はありません。

StorageTek SAS 8-Port Internal Host Bus Adapter (LSI 3081E-S ベース) のポート 1 は使用できません。

LED の動作がドキュメントの説明と異なる (6580675)

サーバーのハードディスクドライブ (HDD) には、オレンジ、緑、青の 3 つの LED があります。位置特定 LED を点灯するコマンドを HDD に対して実行すると、ドライブのオレンジ色の LED が点滅します。

BIOS コマンドを使用して HDD の位置特定 LED を点灯させると、緑色の LED が点滅します。この現象は、ディスクを Adaptec SG-XPCIESAS-R-IN Integrated RAID コントローラカードに接続しているサーバーで発生します。

対処方法: Adaptec SG-XPCIESAS-R-IN Integrated RAID コントローラカードに接続しているドライブに対して BIOS レベルからロケットコマンドを実行すると、HDD でオレンジ色の LED ではなく緑色の LED が点滅することを確認してください。これが BIOS レベルでの正しい動作です。OS レベルからロケットコマンドを実行した場合 (一般的なコマンドの実行方法)、HDD のオレンジの LED が点滅します。

LSI HBA を装着した Sun Fire X4240 サーバーは、RAID アレイの 16 台のハードディスクドライブのうち 14 台しか使用できない (6613780)

Sun Fire X4240 サーバーに Sun StorageTek SAS 8-Port Internal Host Bus Adapter (LSI 3081E-S based)、部品番号 SG-XPCIE8SAS-I-Z または SG-PCIE8SAS-I-Z が装着されている場合は、HBA で RAID1 または RAID1E アレイを構築できます。Sun Fire X4240 には、最大で 16 台のハードディスクドライブを内蔵できます。ただし、HBA が装着された RAID アレイに含まれるハードディスクドライブは 14 台までです。

推奨事項: Sun Fire X4240 サーバーの HBA を使用する場合、14 台のドライブの RAID アレイをセットアップし、残りの 2 台のドライブをホットスペアにします。

ボリュームの再同期が進行中に別のボリュームからドライブを削除すると、再同期が最初から開始される (6584821)

ボリュームを再同期中に同じ HBA 上の別のボリュームからドライブを削除すると、ボリュームの再同期が最初から開始されます。再同期は、再同期を高速化する Fast Resync 機能 (セカンダリ上の書き込みキャッシュ) が有効な場合にのみ再開されます。

対処方法: ボリュームの再同期中にドライブを削除しないこと以外に現在対処方法はありません。この問題により、再同期プロセスに余分な時間がかかる可能性があります。

トラフィックが多いと Ethernet アクティビティライトが点灯したままになる (6630669)

トラフィックが多いと、ホスト Ethernet の緑のアクティビティ LED が点灯したままになります。一般に、トラフィックの中断時には LED が点滅すると考えがちですが、この場合 LED は点滅しません。問題はないので無視することができます。

PCI-e オプションカードを追加すると、他のカード上のデバイスや内蔵デバイスをブートできない (6639184)

電源投入時の自己診断テスト (POST) 中にシステム BIOS により読み込まれるオプションの ROM (OpROM) により、内蔵デバイスと PCI-e オプションカードの両方からブートできます。これには、ハードディスクドライブとネットワークポートが含まれます。PC アーキテクチャは、OpROM 用の領域を 128K バイトに制限します。システム BIOS では OpROM が見つかったら、PCI バスとデバイス番号に応じてそれらを読み込みます。BIOS で OpROM を読み込むための領域が不足すると、その一部が読み込まれない可能性があります。この場合は、BIOS POST 画面に「Not Enough Space to Copy OpROM (OpROM をコピーする十分な領域がありません)」というエラーが表示されます。これは、PC アーキテクチャの制限によるものです。

対処方法: PCI-e オプションカードを追加して、その他のカードや内蔵デバイスからブートできなくなった場合は、BIOS セットアップを使用してブートする必要がないデバイスの OpROM を無効にします。

すべての PCI-e カードオプションの ROM (OpROM) を無効にすると、システムが機能しなくなる (6678276)

Sun Fire X4440 サーバーで BIOS セットアッププログラムに進み、すべてのオプションカードの OpROM を無効にすると、システムはブート時のオプション ROM の初期化中にハングし、機能しなくなります。

対処方法: PCI-e オプションカードの OpROM はすべてを無効にしないでください。OpROM 用に追加の領域が必要な場合は、PCI-e オプションカードの OpROM を一度にすべて無効にするのではなく、必要な領域が得られるまで PCI-e カードの OpROM を一度に 1 つずつ無効にします。

RAID 再同期操作中にハードディスクを取り外さないこと (6604060)

Sun StorageTek SAS 8-Port Internal Host Bus Adapter (LSI 3081E-S ベース)、部品番号 SG-XPCIE8SAS-I-Z または SG-PCIE8SAS-I-Z を使用しているサーバーで、次の操作を行ったとします。

1. RAID 再同期操作中にハードディスクドライブを取り外します。
2. そのドライブを別のスロットに移動します (ドライブが HBA により検出され、新しい RAID 同期操作が実行されます)。
3. 新しいドライブを以前のスロット (ドライブを取り外したスロット) に取り付けます。

新しいドライブと移動したドライブの緑の LED は、両方が再同期している場合と同様に点滅します。ただし、実際は RAID の一部であるドライブが既存の RAID と再同期し、次に移動したドライブが再同期します。

新しいドライブの点滅している LED は無視できます。このドライブは実際は再同期していません。ドライブでボリュームを作成すると、LED の点滅は停止します。

対処方法: 再同期操作中はドライブを取り外さないでください。

KVM に挿入されている PS/2 方式のキーボードが POST 中に応答しない (6600715)

PS2 方式のデバイスをサポートする USB KVM をサーバーに接続して使用する場合、接続している PS/2 方式のキーボードがサーバーの電源投入時の自己診断テスト (POST) の間に機能しない場合があります。

対処方法: PS/2 方式の入力デバイスをサポートする KVM は使用しません。USB 入力デバイスをサポートする KVM を使用します。

Intel D33025 PRO/1000 PT Desktop Adapter ではネットワークブートができません (6663738)

ネットワークカードからのネットワークブートオプションが必要な場合は、Intel シングル Gigabit Ethernet PCI-e アダプタ (Intel D33025 Pro/1000 PT) を使用しないでください。このカードは、X4140、X4240、または X4440 サーバーのネットワークブートに対応していません。

対処方法: いずれかの内蔵ネットワークインタフェースカードまたは Sun サーバーでサポートされる PCI-e オプションカードを使用してネットワークブートを実行します。

PIRQ_ Tables で存在しないエントリのエラーが生成される (6609245)

このシステムの IRQ ルーティングテーブルには、実際のデバイスに対応していない PCI バス番号 0x90 および 0x91 に対応する 2 つのテーブルエントリがあります。まれに、これらの不明なデバイスに関する警告がオペレーティングシステムでログに記録されるか、システム管理ソフトウェアで表示される可能性があります。さらに、これらのテーブルエントリには、実際の PCI スロットと競合する PCI スロット番号 4 が含まれています。

バス番号 0x90 および 0x91 のデバイスのエラーは無視してください。

CD または外部のブート可能なデバイスから Sun Fire X4240 サーバーを起動できない (6669327)

最大の内部ハードディスク 16 台を装備した Sun Fire X4240 は、内蔵型の CD や外部のブート可能なデバイスからブートできない可能性があります。

対処方法: この問題が発生した場合は、サーバーのいずれかの内蔵ハードディスクの接続を一時的に切断してから CD または外部デバイスからブートします。CD または外部デバイスからサーバーをブートする必要がなくなったら、ディスクをもう一度取り付けます。

複数の OpROM カードを取り付けると MPTBIOS および Linux ブートエラーメッセージが表示される (6667530)

Sun Fire X4240 サーバーで内蔵デバイスを初期化したあとは、オプションカードで 32K バイトの I/O 領域しか利用できません。このため、OpROM を使用するカードを多数取り付けると、サーバーの BIOS 用の I/O 領域が不足します。ほとんどのカードは、ドライバ、およびカードの機能がレガシ I/O 領域に依存しているかどうかに応じて、OS レベルでは引き続き機能しますが、ほとんどの場合 POST 中は機能しません (カードの OpROM を使用している場合など)。

同様の制限はすべての PC アーキテクチャ製品に存在しますが、カード用に残存する I/O 領域の正確な量はチップセットや他の内蔵デバイスによって異なります。

対処方法: カードに応じて異なります。1 つのカードを一時的に取り外すと、OpROM が使用できるようになる場合があります。それ以外の唯一の対処方法は、オプションカードに必要な合計領域を Sun Fire X4240 サーバーで利用可能な 32K バイトに制限するようにカードを設定することです。

POST 中にエラーメッセージが表示され、F1 キーを押すまで再開を待機する (6680490)

サーバーの BIOS POST 中に重大ではないエラーまたは警告が発生するとシステムが一時停止し、「Press F1 to resume (再開するには F1 キーを押してください)」というメッセージが表示されることがあります。

対処方法: このメッセージが表示された場合は、F1 キーを押してブートプロセスを続行してください。

AMD Erratum 326: 整列していない読み込み操作によりプロセッサコアがハングする可能性がある (6682358)

まれに、きわめて特殊な内部的なタイミング条件で、整列していないオペランドを使用した読み込み操作により、システムのプロセッサコアがハングする可能性があります。この条件は、LOCK プリフィックスを使用せずにデータをメモリから読み込む命令で、最初と最後のバイトが別の 8 進数ワードにある場合に発生する可能性があります。

現在この問題の対処方法はありません。サーバーの BIOS の今後のリリースに、この問題を防止する対処方法が含まれる可能性があります。

解決された問題

次の問題は、部分的に解決されています。解決策については、「[\(RHEL 4.5\) Sun Fire X4240/X4440 クアッドコアシステムで、IO の高負荷時に Hypertransport Sync Flood エラーが発生する \(6682186\)](#)」(30 ページ)を参照してください。

POST 中に Hyper Transport Sync Flood Error に続いて予期しないリブートが発生する (6682186)

この問題は、AMD Opteron クアッドコアプロセッサを使用している Sun Fire X4240 サーバーと X4440 サーバーでまれに発生することが報告されています。

「Hypertransport Link Protocol Error (ハイパートランスポートプロトコルエラー)」は、PCI 領域とピュアメモリ間のロー 4G バイトで MMIO マッピングのオーバーラップまたは不一致があることを示しています。

システム管理とサービスプロセッサの 注意事項

次の注意事項は、Sun Fire X4140、X4240、X4440 の各種サーバーの Integrated Lights Out Manager サービスプロセッサ (ILOM SP) に適用されます。

- 「JavaRConsole の複数のタブを切り替えると、ビデオと仮想 USB エミュレーションで間欠的な問題が発生する可能性がある (6606701)」 (17 ページ)
- 「存在しないファンのプロパティが表示される (6639289)」 (17 ページ)
- 「ILOM シリアルポート設定への変更を保存できない、または予期せず変化することがある (6632937)」 (17 ページ)
- 「SP のリセット後に ILOM のシリアルポートの設定が必要になる場合がある (6647450)」 (18 ページ)
- 「ILOM WebGUI または CLI を使用して設定したシリアルポートが正しく保存されない場合がある (6648398)」 (18 ページ)
- 「Sun Fire X4140 サーバーでは ILOM の警告が電子メールで送信されない (6649656)」 (18 ページ)
- 「ILOM SNMP のフラッシュアップグレードがサポートされていないので、他の方法でアップグレードしなければならない (6626097)」 (19 ページ)
- 「Sun Installation Assistant の使用による SP の修復が失敗する場合がある (6629255、6644177)」 (19 ページ)
- 「IPMI を使用してユーザーアカウントを作成すると問題が発生する場合がある (6574304)」 (19 ページ)
- 「Solaris OS で ILOM 仮想フロッピーをフォーマットできない (6593484)」 (20 ページ)
- 「SP の破損を u-boot を使用して修復する (6626767)」 (20 ページ)
- 「BIOS と ILOM で異なるシステム GUID が表示される (6650248)」 (22 ページ)
- 「センサーイベントの発生時に SNMP トラップが送信されない (6675315)」 (23 ページ)
- 「間違ったシャードイントリージョンイベントがログに記録される (6671003、6676862)」 (23 ページ)
- 「サービスプロセッサ (SP) ブート中にディスクを取り外すと、SP でディスク FRU 状態が破損する場合がある (6654843)」 (24 ページ)
- 「CD を最初にマウントしない限り、JavaRConsole で仮想フロッピードライブを使用できない (6656250)」 (24 ページ)
- 「ILOM ドキュメントの場所」 (24 ページ)

JavaRConsole の複数のタブを切り替えると、ビデオと仮想 USB エミュレーションで間欠的な問題が発生する場合があります (6606701)

ILOM サービスプロセッサは、JavaRConsole リモート Java WebStart アプリケーション経由でリモート KVMS 機能を提供します。JavaRConsole では、「New Session(新規セッション)」メニューを選択して、複数の ILOM サービスプロセッサに同時にアクセスすることもできます。このとき、JavaRConsole の複数のタブを切り替えると、ビデオと仮想 USB エミュレーションで間欠的な問題が発生する可能性があります。

対処方法: 開いている各 ILOM サービスプロセッサの Web GUI セッションとは別に JavaRConsole を起動します。

存在しないファンのプロパティが表示される (6639289)

ILOM サービスプロセッサには、ファンを監視する機能があります。特定のモデルには 3 番目のファンモジュールはありませんが、このファンモジュールのプロパティが ILOM GUI と CLI インタフェースに表示されます。

対処方法: ファンモジュール 3 をサポートしないモデルではファンモジュール 3 (fm3) の情報を無視してください。

ILOM シリアルポート設定への変更を保存できない、または予期せず変化することがある (6632937)

ILOM サービスプロセッサには、外部およびサーバーシリアルポートの速度をカスタマイズする機能があります。同時に多くの ILOM プロパティを変更するなど、特定のまれなケースでは、ILOM のシリアルポート設定が保存されなかったり、予期しない時期にボーレートが変化したりする可能性があります。

対処方法: ILOM が機能しない場合は、シリアルポートを設定し直して、ILOM サービスプロセッサをリセットします (サービスプロセッサのリセット方法の詳細については、『*Sun Integrated Lights Out Manager 2.0 User's Guide (Sun Integrated Lights Out Manager 2.0 ユーザーズガイド)*』(820-1188)を参照してください)。

SP のリセット後に ILOM のシリアルポートの設定が必要になる場合がある (6647450)

ILOM サービスプロセッサでは、ホストおよびサービスプロセッサのシリアルポートインタフェース上でシリアルポートのボーレートを設定することができます。特定の状況では、サービスプロセッサのリセットの間にシリアルボーレートおよびフローコントロールの設定が保存されない可能性があります。

対処方法: 9600 ボーを使用するか、SP をリセットするたびに別のボーレートを設定します。

ILOM WebGUI または CLI を使用して設定したシリアルポートが正しく保存されない場合がある (6648398)

ILOM サービスプロセッサでは、外部シリアル管理ポートのシリアルポートとホストポートを設定できます。特定のまれな状況では、ILOM WebGUI または CLI インタフェースを使用してシリアルポートを設定するときに、設定が正しく保存されず、ILOM サービスプロセッサが応答しなくなる場合があります。

対処方法: この状態をクリアするには、サーバーをシャットダウンし、AC 電源を切断します。問題が持続する場合は、最新の Sun Installation Assistant (SIA) を使用してサービスプロセッサファームウェアをアップグレードし、サーバーを修復します。

Sun Fire X4140 サーバーでは ILOM の警告が電子メールで送信されない (6649656)

ILOM サービスプロセッサは、IPMI、SNMP、および電子メールでサーバーの監視警告を送信しますが、X4140 サーバーでは電子メールでの警告は送信されません。

対処方法: 代わりに警告通知方法 (IPMI または SNMP) を使用します。リモート syslog サーバーへのイベントログを記録するリモート syslog 機能を使用するか、サーバーのツールとドライバの CD に収録されている ipmitool パッケージで配布される ipmievd イベントデーモンを使用できます。これらの機能で、サーバーのイベントのリモート監視を行います。

ILOM SNMP のフラッシュアップグレードがサポートされていないので、他の方法でアップグレードしなければならない (6626097)

ILOM サービスプロセッサには、GUI、CLI、ipmiflash、および SNMP フラッシュアップグレード用のインタフェースがありますが、サーバーでは SNMP フラッシュアップグレード用のインタフェースがサポートされていません。

対処方法: ILOM のフラッシュアップグレードには、GUI、CLI、または ipmiflash インタフェースを使用します。サーバーから開始できるローカルフラッシュアップグレードの新しい方法については、ipmiflash のドキュメントを参照してください。

Sun Installation Assistant の使用による SP の修復が失敗する場合があります (6629255、6644177)

Sun Installation Assistant (SIA) の CD には、ipmiflash ユーティリティが収録されています。SP ファームウェアイメージが破損した場合は、このユーティリティを使用して修復できます。このアプリケーションの使用時に修復プロセスが正しく行われなかった場合は、再試行する必要があります。

対処方法: フラッシュリカバリの場合、DOS ベースの SP ファームウェア修復ツール (socflash) を使用します。このツールは、ツールとドライバの CD (sp_firmware ディレクトリ) に衆力されています。また、次の Sun ダウンロード Web サイトからも入手できます。

<http://www.sun.com/x64/servers/x4140/downloads.jsp>

IPMI を使用してユーザーアカウントを作成すると問題が発生する場合があります (6574304)

ILOM のユーザーインタフェースには、ユーザーアカウントの情報が表示されます。IPMI プロトコルを使用すると、ILOM の WebGUI や CLI のインタフェースに表示できる数よりも多くのユーザーを作成できます。

対処方法: 表示できる数以上のユーザーを作成しないでください。

Solaris OS で ILOM 仮想フロッピーをフォーマットできない (6593484)

ILOM サービスプロセッサは、ブートおよびインストール用のシンプルな仮想フロッピーメディアエミュレーションが付属していますが、Solaris オペレーティングシステムではこの仮想フロッピーのエミュレーションをフォーマットできない場合があります。

対処方法: サーバーの OS のメディアイメージマウント機能を使用して仮想フロッピーメディアのイメージをフォーマットします。たとえば、Solaris には、フロッピーメディアとしてファイルイメージを再マッピング、フォーマット、およびマウントするマウントコマンドが用意されています。

SP の破損を u-boot を使用して修復する (6626767)

ILOM サービスプロセッサは、内部設定ファイルシステムに保存される持続的な SP 設定を提供します。内部設定が破損した可能性がある場合は、ログインして設定を修正できます。これには、フラッシュアップグレードの中断や停電が含まれます。

このような破損を修復できる複数の u-boot の修復方法があります。

ILOM の SP ドーターカードを備えたサーバー用 u-boot preferred 変数

個別の SP ドーターカードを備えデュアルイメージをサポートするサーバーに 2 つのバージョンの ILOM ファームウェアイメージがある場合は、一方のイメージをブートし、もう一方で ILOM をアップグレードできる場合があります。u-boot 'preferred' 変数がある場合は、これを 0 または 1 に設定して、最初のイメージまたは 2 番目のイメージからブートできます。

次に例を示します。

1. u-boot 環境に切り替えるには、シリアル管理ポートで Linux のブートプロンプトが表示されたときに「xyzzy」と入力します。次に例を示します。
プロンプト: Booting linux in 2 seconds... (Linux を 2 秒後にブートします...)
入力: xyzzy

2. preferred 変数がある場合はこれを 0 または 1 に設定し、次のように bootpkg コマンドを使用してブートします。

```
printenv
setenv preferred 0
saveenv
bootpkg
```

注 – u-boot 環境に preferred 変数がない場合や、代替イメージをブートできない場合は、このコマンドは機能しません。

3. 設定を保存しないで、ILOM サービスプロセッサの別のフラッシュアップグレードを実行します。

設定を保存しないことで、デフォルトの正しい値で設定が再作成されます。

u-boot *preserve_conf* 変数

ILOM サービスプロセッサの新しいバージョンには、u-boot でサービスプロセッサをデフォルトの設定に戻す修復方法があります。'preserve_conf' 変数を 'no' に設定して、サービスプロセッサをブートすることで、デフォルトの設定が復元されます。

例:

1. u-boot 環境に切り替えるには、シリアル管理ポートで Linux のブートプロンプトが表示されたときに「xyzyzy」と入力します。次に例を示します。

```
Booting linux in 2 seconds...
xyzyzy
```

2. *preserve_conf* 変数がある場合はこれを no に変更し、bootpkg コマンドを使用してブートします。

```
printenv
setenv preserve_conf no
saveenv
bootpkg
```

注 – saveenv コマンドは、Linux がフラッシュの所定のロケーションでこの変数の値を読み取ることができる場合のみ有効なため、忘れないでください。

setenv コマンドを実行したら、bootpkg コマンドを実行する前に、saveenv を実行する必要があります。そうしないと、設定はフラッシュの u-boot env に書き込まれず、実行時に ILOM アプリケーションにより読み込まれません。

例:

```
setenv preserve_conf yes
```

```
saveenv
```

```
bootpkg
```

上の例の bootpkg コマンドの代わりに reset コマンドを使用することもできます。

BIOS と ILOM で異なるシステム GUID が表示される (6650248)

IPMI 仕様のシステム GUID では、サーバーの ILOM でサーバーを個別に識別し表示できます。同様にサーバーの BIOS にも GUID があります。

これらのシステム GUID の表示方法は異なります。

次に dmidecode の例を示します。

...

```
Handle 0x0001
DMI type 1, 27 bytes.
System Information
Manufacturer: Sun Microsystems
Product Name: Sun Fire X4240
Version: 1.00 Serial Number: 0747QCD00F
UUID: 00000000-0000-0000-0000-00144F8D2F26
Wake-up Type: Power Switch
```

次に ipmitool の例を示します。

...

```
FRU Device Description : /UUID (ID 100)
Product Extra          : 080020FFFFFFFFFFFFFFFF0144F8D2F26
```


センサーイベントの発生時に SNMP トラップが送信されない (6675315)

ILOM サービスプロセッサにはイベントの発生時の警告メカニズムがあり、IPMI PET トラップ、SNMP トラップ、および電子メールでの警告がサポートされています。特定の状況では、これらの警告メカニズムが正しく機能しません。たとえば、ILOM のコマンドラインインタフェース (CLI) を使用して警告を設定しても機能しない場合があります。これによってサーバーの操作で問題が発生することはありません。

この問題は、ILOM バージョン 2.0.2.3 を備えた Sun Fire X4140、X4240、および X4440 サーバーで確認されています。

対処方法: ILOM CLI ではなく、ILOM Web GUI インタフェースを使用して警告を設定し、警告の変更や表示で問題が発生しないようにします。

SNMP での警告機能を有効にできない場合は、次のいずれかの代替警告メカニズムを使用します。

- IPMI PET トラップ
- 電子メールでの警告 (Sun Fire X4240 および X4440 向け)。Sun Fire X4140 を使用している場合は、[「Sun Fire X4140 サーバーでは ILOM の警告が電子メールで送信されない \(6649656\)」 \(18 ページ\)](#) を参照してください。

他に、次のようなりモート通知メカニズムがあります。

- syslog サーバーにログ記録するリモート syslog 機能
- SP イベントログをリモートで監視する ipmievd イベントデーモン (ツールとドライバの CD の ipmitool パッケージに収録されています)

間違ったシャースイントルーションイベントがログに記録される (6671003、6676862)

1 つの AC 電源装置を備えた一部の X4140 システムでは、上面カバーを正しく取り付けている場合でも、間違ったシャースイントルーションイベントがサービスプロセッサによりログに記録される場合があります。これらのイベントは、初期に生産された電源装置 (部品番号 300-2015-05) から発生したノイズが原因です。ただし、これらの間違ったイベントはシステムに影響を与えません。

これらのイベントは、シャースイントルーションのアサートに続いて、5~6 秒後に ILOM イベントログでデアサートされる特徴があります。この動作は、電源が投入されているシステムに 2 番目の AC 電源を差し込んだ場合の現象に似ています。

対処方法: 長期的な修正方法ができるまでは、この問題が頻発するシステムに 2 番目の AC 電源を追加することで、ノイズや関連する間違ったイベントを大幅に削減できる場合があります。

サービスプロセッサ (SP) ブート中にディスクを取り外すと、SP でディスク FRU 状態が破損する場合があります (6654843)

SP をブート中にディスクを追加したり取り外したりすると、ディスクの状態に関する不適切なデータが SP にリストされる可能性があります。

対処方法: SP をブート中にディスクの追加や取り外しを行わないでください。ディスクを追加したり取り外す途中で SP がリブートした場合は、dfrud コマンド (Linux) を使用するか、ILOM Web インタフェースまたは CLI を使用して SP をリブートすることで SP の状態を復元できます。

CD を最初にマウントしない限り、JavaRConsole で仮想フロッピードライブを使用できない (6656250)

Windows 2003 (32 ビット版) を実行しているサーバーで、JavaRConsole を使用して仮想フロッピードライブまたはイメージをマウントしていると、仮想フロッピードライブを使用できない場合があります。

対処方法: JavaRConsole では、CD ディスク/イメージを最初にマウントすると、フロッピードライブがマウントできるようになります。

ILOM ドキュメントの場所

Integrated Lights Out Manager (ILOM) の詳細については、該当する ILOM ドキュメントを参照してください。

- 製品固有の ILOM 情報は、システムの『診断ガイド』に含まれています。
- 全般情報は、『Sun Integrated Lights Out Manager 2.0 ユーザーズガイド』、および『Sun Integrated Lights Out Manager 2.0 ユーザーズガイド (補足)』に含まれています。補足のどの部分が使用しているサーバーに適用されるかについては、『[Sun Integrated Lights Out Manager 2.0 ユーザーズガイド \(補足\)](#)』に本製品には適用されない情報が掲載されている」(48 ページ) を参照してください。

Solaris に関する注意事項

このセクションでは、Solaris 10 オペレーティングシステムが動作している Sun Fire X4140、X4240、X4440 の各種サーバーを対象とする注意事項を説明します。

- 「UFS ファイルシステムを突然シャットダウンしたときにプロセス間サイレントファイルが破損する (6577822)」 (25 ページ)
- 「autopl の使用によるハードディスクドライブの電源管理」 (26 ページ)
- 「Solaris オペレーティングシステムのコマンドを使用したシリアルポートへのサーバーコンソールのリダイレクト (6623089)」 (26 ページ)
- 「故障したドライブで raidctl を使用するとエラーが発生する (6590675)」 (27 ページ)
- 「StorageTek SAS 8-Port Internal HBA を装備した Sun Fire サーバーのブート中に SERR イベントが報告される (6603801)」 (27 ページ)
- 「QLogic 4G HBA がデバイスリストに定期的に表示されない (6642133)」 (28 ページ)
- 「日時がスキップするため時間制御アプリケーションが中断する (6613085)」 (28 ページ)
- 「最後のパケットが衝突したときの MAC エラーでシステムがハングすることがある (6648502)」 (28 ページ)
- 「Solaris GRUB で内蔵 NVIDIA ネットワークインタフェースカードを検出できない場合がある(6617677)」 (29 ページ)
- 「Solaris FMA が PCI-e スロット番号情報を間違って報告する場合がある (6653828)」 (29 ページ)

UFS ファイルシステムを突然シャットダウンしたときにプロセス間サイレントファイルが破損する (6577822)

UFS ファイルシステムでは、システムを突然シャットダウンしたときにディスク上のファイルが同期されない場合があります。

対処方法: 次のいずれかの方法でこの問題を防ぎます。

1. 重要なファイルをすべて ZFS ファイルシステムに保存します。
 2. 'forcedirectio' オプションを使用して UFS ファイルシステムをマウントします。
- 2 番目のオプションでは、一部のファイルアクセスでパフォーマンスの問題が発生する可能性があります。

autopm の使用によるハードディスクドライブの電源管理

Solaris OS には電源管理機能があり、アイドル状態のシステムコンポーネントの電源を自動的にオフにするように設定できます。

注 – 節電のために、ハードドライブの電源管理を有効にすることをお勧めします。

電源管理の設定は、`/etc/power.conf` ファイルにあります。このファイルは起動時に初期化されます。また、コマンドラインからコマンド `pmconfig` を入力して初期化することもできます。

電源管理をシステム全体で有効または無効にするには、`/etc/power.conf` ファイルの `autopm` エントリを使用します。`autopm` エントリの形式は次のとおりです。

`autopm behavior`

次に、*behavior* に指定可能な値とその意味を示します。

コマンド	説明
<code>default</code>	米国環境保護局の Energy Star Memorandum of Understanding #3 に準拠するシステムではデバイスの自動電源管理が有効になりますが、準拠していないシステムでは有効になりません。
<code>enable</code>	このエントリが検出されると、デバイスの自動電源管理が開始されます。
<code>disable</code>	このエントリが検出されると、デバイスの自動電源管理が停止されます。

詳細については、`pmconfig(1M)` および `power.conf(4)` のマニュアルページを参照してください。

Solaris オペレーティングシステムのコマンドを使用したシリアルポートへのサーバーコンソールのリダイレクト (6623089)

ILOM を使用するか、プロンプトで次のオペレーティングシステムコマンドを入力してサーバーコンソールをシリアルポートにリダイレクトできます。

```
%eeprom console=ttya
```

故障したドライブで raidctl を使用するとエラーが発生する (6590675)

Solaris 10 08/07 を実行しているときに RAID ボリュームのドライブが故障し、raidctl(1m) を実行すると、次のエラーが発生する可能性があります。

```
bash-3.00# raidctl
Device record is invalid.
```

raidctl(1m) は、故障したドライブが交換されると、正常に機能するようになります。

対処方法: 故障中は、ILOM を代替オンライン手段として使用し、ドライブのステータスを確認します。次に、故障したドライブを新品のドライブに交換する準備が整ったら、ドライブの交換準備完了 LED を使用します。

StorageTek SAS 8-Port Internal HBA を装備した Sun Fire サーバーのブート中に SERR イベントが報告される (6603801)

サーバーに Sun StorageTek SAS 8-Port Internal Host Bus Adapter (LSI 3081E-S based)、部品番号 SG-XPCIE8SAS-I-Z または SG-PCIE8SAS-I-Z が装着されている場合は、Solaris をブートするたびに HBA から FMA を介して PCI SERR が報告されます。

SERR が報告される原因としては、FMA がサーバーの PCI バスをスキャンするときに、HBA 上に存在しない機能を探していることが考えられます。

システムがブートしてから、fmdump -e コマンドを実行すると、次の例に示すような 4 つのイベントが発生します。

```
Sep 21 16:05:56.8682 ereport.io.pciex.rc.nfe-msg
```

```
Sep 21 16:05:56.8682 ereport.io.pci.sec-rserr
```

```
Sep 21 16:05:56.8682 ereport.io.pci.sec-ma
```

```
Sep 21 16:05:56.8682 ereport.io.pci.sserr
```

これらのエラーメッセージは無視してかまいません。

QLogic 4G HBA がデバイスリストに定期的に表示されない (6642133)

QLogic FC HBA をスロット 5 に装着して Solaris を実行している Sun Fire X4240 システムは、定期的にオフラインになり、デバイスリストに表示されない場合があります。次に、/var/adm/messages のログに記録されるエラーメッセージの例を示します。

```
Dec 13 04:20:40 x4240p1-01 qlc: [ID 308975 kern.warning] WARNING:
qlc(5): login fabric port failed D_ID=fffffch, error=100h
Dec 13 04:20:40 x4240p1-01 qlc: [ID 630585 kern.info] NOTICE: Qlogic
qlc(5): Link OFFLINE
Dec 13 04:22:15 x4240p1-01 qlc: [ID 630585 kern.info] NOTICE: Qlogic
qlc(5): Link ONLINE
```

サーバーを Ping することはできますが、コンソールからログインしたりアクセスしたりすることはできません。オフライン条件はサイレントではありません。また、データの破損はありません。

現在この問題の対処方法はありません。

日時がスキップするため時間制御アプリケーションが中断する (6613085)

Sun Fire X4140、X4240、および X4440 サーバーで Solaris OS を実行していると、まれにシステムの日時情報が過去または将来の時間にリセットされる場合があります。これは、時間制御アプリケーションに影響を及ぼす可能性があります。

対処方法: この問題が発生した場合は、システムの日付と時間を OS またはシステム BIOS からリセットします。

最後のパケットが衝突したときの MAC エラーでシステムがハングすることがある (6648502)

まれに、転送パケットの FCS の最後のバイトを準備中に衝突が発生すると、Sun Fire サーバーの内蔵 NVIDIA NIC がハングしてシステムのレポートが必要になる場合があります。この問題は、Solaris を実行している X4140、X4240、および X4440 サーバー (NVIDIA MCP55 チップセットの GbE ポートを使用) で、ネットワーク接続を不適切に設定している場合にのみ発生します。

対処方法: ハング状態を回避するには、内蔵 NVIDIA NIC とネットワークスイッチ (またはハブやリンクステーション) を同じ速度と二重化設定に設定します。NVIDIA NIC と接続ポートを同じ二重化モードに設定するか、両方のポートを自動ネゴシエーションに設定します。

Solaris GRUB で内蔵 NVIDIA ネットワークインタフェースカードを検出できない場合がある (6617677)

デフォルトの設定では、Solaris (Nevada) GRUB の最近リリースされたバージョンでサーバーに内蔵されている NVIDIA NIC を検出できない場合があります。

対処方法: サーバーの BIOS セットアップで、内蔵 NIC のモードを「MAC Bridge mode」に変更します。

Solaris FMA が PCI-e スロット番号情報を間違っ て報告する場合がある (6653828)

ブリッジチップ付きの PCI-e カードでは、ブリッジの背後にある機能の IRQ ルーティングテーブルでスロット番号が間違っている場合があります。ブリッジチップの機能のいずれかについて Solaris FMA (Fault Management Architecture) でエラーが報告された場合は、不適切なスロット番号を報告する可能性があります。

対処方法: Solaris FMA から PCI-e カードの機能に関する問題が報告された場合は、間違っている可能性がある報告されたスロット番号とサーバーのオプションカードの設定の両方を詳しく検討して、どの PCI-e カードに問題があるかを確認してください。

Linux に関する注意事項

次の注意事項は、サポートされている Red Hat または SUSE Linux オペレーティングシステムが動作しているサーバーに適用されます。

- 「(RHEL 4.5) Sun Fire X4240/X4440 クラッドコアシステムで、IO の高負荷時に Hypertransport Sync Flood エラーが発生する (6682186)」 (30 ページ)
- 「(SLES10 SP1) HDD を同時に取り外したあと、SP のディスク FRU 情報が正しく更新されない (6643935)」 (30 ページ)
- 「高負荷が持続するディスクとネットワーク I/O により、サーバーがハングしたり、「Soft Lockup」というメッセージが表示される場合がある (6609005、6627637)」 (31 ページ)
- 「Linux オペレーティングシステムコマンドを使用したシリアルポートへのサーバーコンソールへのリダイレクト (6623089)」 (32 ページ)
- 「(SLES10 SP1) RAW ディスクから HW RAID1 への移行後にブートできなくなる (6645523)」 (32 ページ)
- 「(RHEL 4.5) AMD PowerNow 機能をオンにしたときに、不適切なシステム CPU 速度が表示される (6614369)」 (33 ページ)

- 「Linux OS で AMI Virtual CDROM/Floppy を有効にする手順 (6570949、6603436)」 (33 ページ)
- 「(RHEL 4.5 32 ビット版) OS で APIC error on CPUx: 40 (40) と表示される (6590687)」 (34 ページ)
- 「(SLES 10 SP1) dmesg ログの無視できるエラーメッセージ (6595474)」 (34 ページ)
- 「(RHEL 4.5 64 ビット版) OS ブート後に USB ポートが非アクティブになる (6588236)」 (35 ページ)
- 「(SLES 10 SP1) dfrud ユーティリティが機能しない (6643935)」 (36 ページ)
- 「(RHEL 4.5 64 ビット版) dfrud ユーティリティが SP FRU データを更新しない場合がある (6658442)」 (36 ページ)
- 「(RHEL 5 および SLES 10 SP1) ファイル I/O パフォーマンスのバランスが著しく取れていない (6546534)」 (36 ページ)
- 「(RHEL 4.5) リムーバブルではない RAID デバイスが OS でリムーバブルデバイスとして表示される (6677394)」 (37 ページ)
- 「(SLES10 SP1) RAW ディスクから HW RAID1 への移行後にブートできなくなる (6645523)」 (32 ページ)

(RHEL 4.5) Sun Fire X4240/X4440 クアッドコアシステムで、IO の高負荷時に Hypertransport Sync Flood エラーが発生する (6682186)

まれに、RHEL 4.5 OS が動作する Sun Fire X4240/X4440 クアッドコアサーバーで、リンクプロトコルエラーサブコードにより Hypertransport Sync Flood エラーが発生する場合があります。このエラーにより、ウォームリセットがすぐにトリガーされます。

対処方法: 詳細および問題を解決するパッチのインストール手順については、次を参照してください。

http://kbase.redhat.com/faq/FAQ_42_11696.shtm

(SLES10 SP1) HDD を同時に取り外したあと、SP のディスク FRU 情報が正しく更新されない (6643935)

SLES10 システムで複数のディスクを同時に追加または削除した場合、ipmitool または同様のアプリケーションを使用して FRU 情報を収集したときに、ディスクの追加や削除が正しく報告されない場合があります。

対処方法: 次のコマンドを使用して dfrud を再開すると、更新されたディスクドライブの状態情報が報告されます。

```
# service dfrud restart
  Stopping dfrud: [ OK ]
  Starting dfrud: [ OK ]
#
```

注 - ディスクドライブの FRU 状態を更新 (ディスクドライブの追加や削除など) するには、上記のように dfrud サービスを再開する必要があります。

高負荷が持続するディスクとネットワーク I/O により、サーバーがハングしたり、「Soft Lockup」というメッセージが表示される場合がある (6609005、6627637)

持続的に負荷の大きいディスクとネットワーク I/O では、Sun Fire X4140/X4240 でエラーが発生し、コンソールに「Soft Lockup」と表示されたり、ハングする場合があります。根本原因は、Nvidia 'forcedeth' Ethernet ドライバです。この問題は、LSI HBA コントローラで発生することがありますが、その他のディスクコントローラでも発生する可能性があります。この問題は、Red Hat Enterprise Linux バージョン 5 で発生することがありますが、その他の実装および Linux のバージョンでも発生する可能性があります。

この問題により、システムは一般に次のような状態になります。

- マウスの動きに応答しない
- キーストロークに応答しない
- 'Ping' に応答しない
- ビデオ表示がフリーズする
- /var/log/messages またはコンソール端末に (有効な場合)、「soft lockup detected on CPU#n!」と表示される

対処方法: 恒久的な解決策が利用できるようになるまで、2つの方法により問題を回避できます。これらの方法はテスト・確認されています。

1. /boot/grub/grub.conf のブートコマンドラインに pci=noms1 を追加します。
2. 次の行を /etc/modprobe.conf に追加します。

```
options forcedeth max_interrupt_work=15
```

最初の方法を行うとバグが完全に解消されるため、こちらをお勧めします。2番目の方法では、発生頻度がゼロ (またはほとんどゼロ) に低下します。

Linux オペレーティングシステムコマンドを使用したシリアルポートへのサーバーコンソールへのリダイレクト (6623089)

サーバーの ILOM には、ユーザーが使用できるリダイレクト機能が用意されていますが、Red Hat (RHEL) または Suse (SLES) で次の操作を実行してサーバーコンソールをシリアルポートにリダイレクトすることもできます。

1. 次の行を `/etc/inittab` ファイルに追加します (SLES の場合、この行はすでに存在し、コメントアウトされている可能性があります。この場合は、行の先頭の `#` を削除します)。

```
s0:12345:respawn:/sbin/agetty -L 9600 ttyS0 vt102
```

2. 次の行を `/etc/securetty` ファイルに追加します。

```
ttyS0
```

3. `/etc/grub.conf` ファイルを下に示すように変更します。

- a. "splashimage ..." で始まる行を次のようにコメントにします。

```
# splashimage=(hd0,0)/grub/splash.xpm.gz
```

- b. "kernel /vmlinuz ..." で始まる行の最後に `console=ttyS0 console=tty0` を追加します。次に例を示します。

```
kernel /vmlinuz-2.6.9 ro root=LABEL=/ debug console=ttyS0,9600 console=tty0
```

- c. または、メニューをシリアルコンソールに表示するには、次の行を `splashimage` の行の前に追加します。

```
serial --unit=0 --speed=9600
terminal --timeout=10 serial console
```

(SLES10 SP1) RAW ディスクから HW RAID1 への移行後にブートできなくなる (6645523)

既存の Raw ディスクの SLES10 SP1 で RAID1 に移行したあと、次のメッセージが表示されてシステムがハングします。

```
Waiting for device /dev/disk/by-id ... to appear
... exiting to /bin/sh
```

対処方法: SLES 10 SP1 のインストール時に、"Mount in /etc/fstab by" の設定を "Device ID" (デフォルト) から "Device name" に変更します。

(RHEL 4.5) AMD PowerNow 機能をオンにしたときに、不適切なシステム CPU 速度が表示される (6614369)

AMD PowerNow! 機能をオンにすると、RHEL 4.5 が動作しているシステムで正しい CPU 速度が表示されません。

対処方法: CPU 速度を正しく表示するには、パッチフィックスが必要です。Sun の Web サイトで `cpuspeed.zip` パッチファイルをダウンロード検索します。

Linux OS で AMI Virtual CDROM/Floppy を有効にする手順 (6570949、6603436)

AMI Virtual CDROM および AMI Virtual Floppy を Linux ベースのホスト OS で (オンデマンド USB でも) 問題なく認識されるようにするには、次の手順が必要になる場合があります。

2.6 カーネルシステムで複数の LUN の `scsi_mod` スキャンを有効にするには、次の手順に従います。

1. `/etc/modprobe.conf` を編集します。

2. 次の行を追加します。

```
options scsi_mod max_luns=128
```

3. ファイルを保存します。

4. 次のコマンドを入力します。

```
cd /boot
```

5. `mkinitrd` コマンドを実行して、使用中の各カーネルバージョンに関連付けられた `initrd ram` ディスクを再構築します。下記の SUSE および Red Hat の例を参照してください。

- SUSE ディストリビューションの場合は、次のコマンドを使用します。

```
cd /boot
```

```
mkinitrd -k vmlinuz-<kernel> -i initrd-<kernel>
```

- Red Hat ディストリビューションの場合は、次のコマンドを使用します。

```
cd /boot
```

```
mkinitrd -v initrd-<kernel>.img <kernel>
```

6. ホストをリブートします。

(RHEL 4.5 32 ビット版) OS で APIC error on CPUx: 40(40) と表示される (6590687)

内部 NVIDIA Ethernet ポート上にネットワークトラフィックがあると、dmesg で APIC error on CPUx: 40(40) エラーが発生する場合があります (ここで、*x* は CPU 番号です)。

次の 2 つの対処方法があります。

- `max_interrupt_work` オプションを増やします。これにより、NIC で INT の有効化と無効化が発生しなくなります。次の行を `/etc/modprobe.conf` ファイルに追加します。

```
forcedeth max_interrupt_work=100
```

- `irqbalance` を無効にして、`smp_affinity` を設定し、IRQ の処理を特定の CPU に合わせて修正します。

これは、次を使用して `irqbalance` を無効にすることで実行できます。

```
chkconfig --levels 12345 irqbalance off
```

次に、NVIDIA Ethernet ポートごとに `smp_affinity` を設定します。

```
echo 1 > /proc/irq/num_eth0/smp_affinity
```

```
echo 2 > /proc/irq/num_eth1/smp_affinity
```

```
echo 4 > /proc/irq/num_eth2/smp_affinity
```

```
echo 8 > /proc/irq/num_eth3/smp_affinity
```

ここで、`num_eth#` は、`/proc/interrupts` に示されている各 Ethernet ポートに関連付けられた IRQ 番号です。

(SLES 10 SP1) dmesg ログの無視できるエラーメッセージ (6595474)

dmesg ログファイルに次のメッセージが表示される場合があります。

ACPI エラーメッセージ:

```
ACPI: Interpreter enabled
```

```
ACPI: Using IOAPIC for interrupt routing
```

```
Error attaching device data
```

```
.  
. .  
.
```

```
ACPI: PCI Root Bridge [PCI0] (0000:00)
```

リアルタイムクロックドライバメッセージ:
Real Time Clock Driver v1.12ac
hpet_resources: 0xfed00000 is busy
ACPI Error (utglobal-0125): Unknown exception code: 0xFFFFFFFF0
[20060127]
Non-volatile memory driver v1.2
Linux agpgart interface v0.101 (c) Dave Jones
i8042.c: No controller found.
Serial: 8250/16550 driver \$Revision: 1.90 \$ 4 ports, IRQ sharing
disabled
serial8250: ttyS0 at I/O 0x3f8 (irq = 4) is a 16550A
RAMDISK driver initialized: 16 RAM disks of 128000K size 1024
blocksize
mice: PS/2 mouse device common for all mice

ストレージエラーメッセージ:
scsi2 : sata_nv
ata3: SATA link down (SStatus 0 SControl 300)
ATA: abnormal status 0x7F on port 0x8887
scsi3 : sata_nv
ata4: SATA link down (SStatus 0 SControl 300)

ネットワークインタフェースカードエラーメッセージ:
NET: Registered protocol family 17
audit(1187715799.512:3): audit_pid=5288 old=0 by auid=4294967295
sbl[5472]: segfault at ffffffffdf rip 00002ac264c72650 rsp
00007fff46527318 error 4
NET: Registered protocol family 10
lo: Disabled Privacy Extensions
IPv6 over IPv4 tunneling driver

対処方法: これらは、システム設定に関する Linux dmesg の警告です。これらの警告による機能的な影響はないので、無視できます。

(RHEL 4.5 64 ビット版) OS ブート後に USB ポートが非アクティブになる (6588236)

RHEL 4.5-x86_64 が動作し、LSI HBA を使用している Sun Fire X4240 サーバーで、OS のブート後に USB ポートが非アクティブになります。

対処方法: この問題が発生した場合は、USB デバイスの接続を外してもう一度接続するか、サーバーをリブートします。

(SLES 10 SP1) dfrud ユーティリティが機能しない (6643935)

ディスク FRU ユーティリティ (dfrud) は、Linux 環境で使用できるユーティリティで、サーバーのサービスプロセッサ FRU (Field Replaceable Unit) 情報を更新するために使用されます。ただし、SLES 10 SP1 の場合、ディスクを取り外しても、サービスプロセッサはディスクがまだ取り付けられているものとして表示します。

対処方法はありません。dfrud は、現時点で SLES 10 SP1 で機能するようにサポートされていません。

(RHEL 4.5 64 ビット版) dfrud ユーティリティが SP FRU データを更新しない場合がある (6658442)

ディスク FRU ユーティリティ (dfrud) ではサーバーのサービスプロセッサのディスクの取り外し/挿入情報が更新されないことがあります。

対処方法はありません。

(RHEL 5 および SLES 10 SP1) ファイル I/O パフォーマンスのバランスが著しく取れていない (6546534)

RHEL 5 または SLES 10 SP1 が動作しているサーバーで、累積 CPU 時間と測定データレートに関してファイル I/O パフォーマンスのバランスが著しく取れていないことが表示される場合があります。これは、Linux スケジュールによって発生します。

対処方法: Linux カーネルのバージョンを 2.6.24 以降にアップデートしてこの問題を解決します。

(RHEL 4.5) リムーバブルではない RAID デバイスが OS でリムーバブルデバイスとして表示される (6677394)

Sun StorageTek SAS RAID Eight-Port Internal Host Bus Adapter (Adaptec ベース)、部品番号 SG-XPCIESAS-R-INT-Z または SG-PCIESAS-R-INT-Z を装着し、RHEL 4.5 が動作している Sun Fire X4240 システムで、リムーバブルではないデバイスがリムーバブルデバイスとして表示される場合があります。これによってシステムのパフォーマンスや信頼性が影響を受けることはありません。

既知の対処方法はありません。このメッセージは無視してかまいません。

(SLES10-SP1) ブートディスクを RAID1 に移行したあと起動しなくなる (6600187、6644934)

SLES 10 SP1 をサーバーにインストールしたあと、ドライブを追加し、そのドライブ上のブートディスクをミラー化した場合、ドライブを Non-RAID から RAID 設定に移行すると、SLES 10 SP1 がブートしません。

これは、移行プロセスの間に論理ディスクの順序が変更されたことが原因である可能性があります。これは、コンピュータのすべてのパーティションとストレージデバイスの設定情報を含んでいる、fstab ファイルの情報に影響を及ぼします。fstab ファイルには、デバイス ID (SLES 10 SP1 の初期インストール中に確定) によりブートディスクを識別する設定、「Mount in /etc/fstab by」があります。RAID1 への移行プロセスの間など、デバイス ID が変化すると、システムは起動デバイスを正しく識別しなくなります。

対処方法: この問題を解決するには、移行の前に /etc/fstab の下にある fstab ファイルを編集して、「Mount in /etc/fstab by」の設定をデバイス ID ではなくデバイス名に変更します。デバイス名は、移行後も同じである必要があります。

移行をすでに完了し、サーバーのブートディスクからブートできない場合は、ネットワークデバイスからのブートを試みます。これが機能する場合は、サーバーのブートディスクにアクセスして、上記のように fstab ファイルを編集できます。

VMware の注意事項

以下の注意事項は、VMware 3.0.2 オペレーティングシステムが動作している Sun Fire X4140、X4240、および X4440 に適用されます。

- 「一部のデバイスが「Unknown」と表示される (6571936、6587973)」 (38 ページ)
- 「VMware ESX 3.0.2 でクアッドコアプロセッサをサポートしていない (6620112)」 (38 ページ)
- 「ESX のインストール中にメッセージ: BIOS handoff failed (BIOS ハンドオフエラー) が発生する (6639297)」 (39 ページ)
- 「スロット 2、4、5 に取り付けられたオプションカードでブート中に VMware でエラーが表示される (6648377)」 (39 ページ)
- 「PCI オプションカードをスロット 2、4、または 5 に取り付けられた場合、VMware ESX がすべての内蔵 NIC を検出しない (6652529、6623720)」 (40 ページ)
- 「複数の RHEA HBA を取り付けるときは、RHEA HBA のいずれかをスロット 1 に取り付けないこと (6573995)」 (40 ページ)

一部のデバイスが「Unknown」と表示される (6571936、6587973)

サーバーに不可欠の一部のデバイス (ISA ブリッジ、SMBus、USB コントローラ、IDE インタフェース、PCI ブリッジ、および RAM メモリなど) が VMware ESX 3.0.2 で不明なデバイスとして認識されます。

対処方法: VMware ESX には、ストレージおよびネットワークデバイス用のドライバのみが用意されています。それ以外は無視され、PCI リスト出力で「Unknown」と表示されます。このメッセージは無視してください。デバイスは正常に動作します。

VMware ESX 3.0.2 でクアッドコアプロセッサをサポートしていない (6620112)

Sun Fire X4140、4240、4440 サーバーでサポートされるバージョンの VMware ESX 3.0.2 はクアッドコアプロセッサに対応していません。これ以前の VMware バージョンをクアッドコアシステムにインストールして使用しないでください。これ以前のバージョンを使用すると、'Initialization of vmkernel failed'(vmkernel カーネルを初期化できませんでした) というエラーメッセージが表示されます。

現時点でこの問題の対処方法はありません。Sun Fire X4140、4240、4440 サーバーの [サポートされているオペレーティングシステム](#) については、Sun の Web サイトを確認してください。

ESX のインストール中にメッセージ: BIOS handoff failed (BIOS ハンドオフエラー) が発生する (6639297)

VMware ESX 3.0.2 をインストール中に次のメッセージが表示される場合があります。

```
echci-hcd 00:2.1: Bios handoff failed
```

これは警告のみで、システムの機能に影響はありません。

このメッセージは無視できます。

スロット 2、4、5 に取り付けられたオプションカードでブート中に VMware でエラーが表示される (6648377)

BIOS による MPS テーブルの作成時に、レガシデバイスで IRQ を使用する前に PCIe オプションカードスロットに割り当てられた IRQ を確認するルーチンがあります。ただし、コードは次のスロットを確認しません。

- Sun Fire X4140 のスロット 2
- Sun Fire X4240 および X4440 のスロット 2、4、5

つまり、これらのスロットに取り付けられたカードで使用される IRQ リソースは占有されず、BIOS により予約されています。OS のブート中に、VMware はこの不一致を検出し、次のエラーメッセージが表示されます。

```
COS error message aboveTSC: 755147304 CPU0: 0) Chipset: 252:  
IRQ 23 has no pin (COS vector is 00)
```

```
Make sure PCI bridges are assigned to COS
```

対処方法: 機能が損なわれる可能性があります。該当するスロットに挿入されたオプションカードは、2 つの内蔵ネットワークインタフェースで機能が無効になります。特定のスロットと対処方法の詳細については、「[PCIe オプションカードをスロット 2、4、または 5 に取り付けられた場合、VMware ESX がすべての内蔵 NIC を検出しない \(6652529、6623720\)](#)」(40 ページ)を参照してください。

PCIe オプションカードをスロット 2、4、または 5 に取り付けた場合、VMware ESX がすべての内蔵 NIC を検出しない (6652529、6623720)

PCIe カードをスロット 2、4、5 に取り付けたシステムは、BIOS が提供する MP テーブルでの問題により、内蔵 NIC 2 および 3 と競合します。これは、VMware ESX 3 を ACPI 以外のモードで使用しているときに発生します。

対処方法: VMware ESX 3 で内蔵 NIC 2 と 3 が必要な場合は、PCIe スロット 0、1、3 のみを使用します。

複数の RHEA HBA を取り付けるときは、RHEA HBA のいずれかをスロット 1 に取り付けないこと (6573995)

複数の LSI Logic RHEA Host Bus Adapter カードを取り付けて VMware ESX 3.0.2 が実行されているサーバーで、RHEA カードのいずれかを PCI-e スロット 1 で使用すると、ブート中にシステムがハングする可能性があります。

対処方法: サーバーで複数の RHEA HBA を使用する場合は、スロット 1 以外のスロットに取り付けます。

Windows の注意事項

次の注意事項は、Microsoft Windows Server 2003 オペレーティングシステムが動作しているサーバーに適用されます。

- 「IPMITool を Windows 環境で使用するには、ドライバをインストールする必要がある (6695007)」 (41 ページ)
- 「Windows Server 2003 インストールエラー。セットアップで USB フロッピードライブが検出されない (6553336)」 (43 ページ)
- 「OS ワームブート後、Synch Flood エラーがイベントログに表示される (6641535)」 (44 ページ)
- 「WinPE のブート時に Windows で青い画面が表示される (6660183)」 (45 ページ)
- 「Windows 2003 のインストール後にスタンバイオプションを利用できない (6655011)」 (45 ページ)
- 「イベントビューアでシステムエラーイベント ID 1003 が報告される (6658446)」 (45 ページ)

IPMITool を Windows 環境で使用するには、ドライバをインストールする必要がある (6695007)

IPMITool を Windows 環境で使用するには、IPMI System Management ドライバをインストールする必要があります。ILOM を介して IPMITool を使用する場合、ドライバは不要です。

IPMITool は、センサーデータリポジトリ (SDR) の読み取り、センサー値、システムイベントログ (SEL)、および FRU (現場交換可能ユニット) のインベントリ情報の表示、LAN 設定パラメータの取得と設定、サーバーのサービスプロセッサ経由のシャシ電源制御操作を実行するコマンドラインユーティリティです。このコンポーネントは、サーバーのツールとドライバの CD または Installpack.exe 実行可能ファイルからインストールおよび使用できます。

IPMITool をインストールしたあとは、次の 2 とおりの方法で使用できます。

- サーバーの ILOM インタフェース経由のアクセス。ILOM の使い方の詳細については、サーバーの ILOM のドキュメントを参照してください。
- サーバーのオペレーティングシステム経由のアクセス。サーバーのオペレーティングシステムで IPMITool を使用するには、Microsoft IPMI System Management ドライバをインストールする必要があります (このドライバは、Sun のオプションコンポーネントとして入手できます。また、Windows Server 2003 R2 に付属しています)。IPMITool をオペレーティングシステムで使用する前に、このドライバをインストールしてインスタンス化する必要があります。

要件

IPMITool を使用するには、Windows バージョンに指定されている次の要件を満たしていることを確認します。

- **Windows Server 2003 SP1 の場合:** Sun のオプションコンポーネント、IPMI System Management ドライバをすでにインストールしている必要があります (詳細は、『Sun Fire X4140、X4240、および X4440 サーバー Windows オペレーティングシステムインストールガイド』(820-5224)を参照してください)。このインストールを完了すると、IPMITool を使用できます。
- **Windows Server 2003 R2 の場合:** Microsoft IPMI System Management ドライバがインストールされ、インスタンス化されていることを確認します。この作業が完了していないと、IPMITool を Windows オペレーティングシステムで使用できません。下の手順に従って操作を行ってください。

▼ IPMI System Management ドライバをインストールする (Windows Server 2003 R2)

IPMItool を Windows オペレーティングシステムで使用する前に次の操作を行います。

1. **Microsoft IPMI System Management** ドライバがインストールされていることを確認します。
 - a. タスクバーの「スタート」ボタンをクリックし、「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
「ファイル名を指定して実行」ダイアログボックスが表示されます。
 - b. 「名前」ボックスに `devmgmt.msc` と入力し、「OK」をクリックします。
デバイスマネージャが表示されます。
 - c. 「システムデバイス」を展開し、「Microsoft 汎用 IPMI 準拠デバイス」があるかどうかを確認します。
 - この項目が表示されている場合は、ドライバがインストールされており、IPMItool を使用できます。デバイスマネージャを閉じます。
 - この項目が表示されていない場合は、Microsoft IPMI System Management ドライバをインストールする必要があります。デバイスマネージャを閉じ、次の手順に進みます。
 - d. コントロールパネルの「プログラムの追加と削除」を開きます。
「プログラムの追加と削除」ダイアログボックスが表示されます。
 - e. 「Windows コンポーネントの追加と削除」をクリックします。
「Windows コンポーネントウィザード」ダイアログボックスが表示されます。
 - f. 「管理とモニタツール」コンポーネントを強調表示して、「詳細」をクリックします。
「管理とモニタツール」ページが表示されます。
 - g. 「ハードウェアの管理」サブコンポーネントのチェックボックスをオンにします。
「サードパーティドライバをインストールしようとしています」という警告メッセージが表示されます。
 - h. 警告メッセージを確認し、「OK」をクリックします。
「管理とモニタツール」ページが表示されます。
 - i. 「OK」をクリックします。
「Windows コンポーネントウィザード」ダイアログボックスが表示されます。
 - j. 「次へ」をクリックします。
ハードウェアの管理コンポーネントがインストールされます。

2. IPMI System Management ドライバをインスタンス化します。

- a. タスクバーの「スタート」ボタンをクリックし、「ファイル名を指定して実行」をクリックします。

「ファイル名を指定して実行」ダイアログボックスが表示されます。

- b. 「名前」ボックスに、次のコマンドを入力します。

```
rundll32 ipmisetp.dll,AddTheDevice
```

入力したら、「OK」をクリックします。

IPMI System Management ドライバがインスタンス化されます。

- c. 上の 1a ~ 1c の手順を繰り返して、IPMI System Management ドライバがインストールされていることを確認します。

IPMItool の使い方については、『Sun Integrated Lights Out Manager 2.0 ユーザーズガイド』(820-2698) を参照してください。標準 IPMItool コマンドの詳細については、次の Web サイトを参照してください。

<http://ipmitool.sourceforge.net/manpage.html>

Windows Server 2003 インストールエラー。セットアップで USB フロッピードライブが検出されない (6553336)

この問題は、Windows のセットアップ中に発生します。セットアップで追加ドライバを読み込む段階になると、フロッピーメディアを挿入するようにプロンプトが表示されます。USB ドライブを接続してメディアを挿入した状態で、システムで繰り返しエラーが発生し、次のプロンプトが表示されます。

```
... insert media and press ENTER when ready ...
```

対処方法: この問題が発生する場合は、A: または B: などのように表示されるドライブに BIOS POST の前にフロッピーディスクを挿入します。

OS ワームブート後、Synch Flood エラーがイベントログに表示される (6641535)

チップセットシリコンの不備によりワームブート時にシステムが SEL および POST 画面に "Synch Flood" エラーを報告する場合があります。通常、実行時の Synch Flood は致命的なハードウェアエラーを意味しますが、この場合はそうではないので無視できます。

対処方法: このエラーがシステムのワーム再起動に対する応答で発生し、実行時に発生しない場合は、F1 を押してエラーを無視し、ブートを続行します。SEL で Synch Flood のレポートを検証して、回復できないメモリエラーによるものではないことを確認する必要があります。

SEL レポートの例を次に示します。Synch Flood の原因に関する追加診断情報は示されません。

セルデコードを使用してエラーを変換したログの出力は、次のとおりです。

```
12d | 07/12/09 | 14:57:33 | System Boot Initiated #0x43 |  
Initiated by warm reset | Asserted  
12e | 07/12/09 | 14:57:33 | Processor #0x04 | Presence detected  
| Asserted  
12f | 07/12/09 | 14:57:33 | OEM #0x12 | | Asserted  
130 | 07/12/09 | 14:57:33 | System Event #0x12 | Undetermined  
system hardware failure | Asserted  
131 | OEM record e0 | 00000000000000000000000000000000  
132 | OEM record e0 | 000000040000000000000000b00006  
133 | OEM record e0 | 0000004800000000000011112022  
134 | OEM record e0 | 00000058000000000000000030000  
135 | OEM record e0 | 000100440000000000000000000000  
136 | OEM record e0 | 0001004800000000000000ff3efa  
137 | OEM record e0 | 0018304c00f200002000020c0f  
138 | OEM record e0 | 800000000000000000000000000000  
139 | OEM record e0 | 800000040000000000000040b00006  
13a | OEM record e0 | 800000480000000000000011112322  
13b | OEM record e0 | 80000058000000000000000030000  
13c | OEM record e0 | 800100440000000000000000000000  
13d | OEM record e0 | 8001004800000000000000ff3efa  
13e | 07/12/09 | 14:57:57 | System Firmware Progress #0x01 |  
Memory initialization | Asserted
```

WinPE のブート時に Windows で青い画面が表示される (6660183)

まれに、Windows 2003 を再起動後の Windows PE 1.5 ブート時に、WinPE で「0xA5, 2, 8A767A8, E1169A0, 8A750710」というデータを示す青い画面が表示される場合があります。

対処方法: WinPE はサポートされるオペレーティングシステムではありませんが、電源をオフにするか、サーバーの AC 電源を一時的に切断することで問題はクリアされます。

Windows 2003 のインストール後にスタンバイオプションを利用できない (6655011)

Windows 2003 を Sun Fire X4140 サーバーにインストールすると、スタンバイモードを利用できなくなります。AMD PowerNOW 機能の省電力機能を利用するには、「Power Options (電力のオプション)」コントロールパネルアプレットから「Server Balanced Power (サーバーバランス電力)」オプションを選択します。ツールとドライバの CD の InstallPack.exe を実行すると、このオプションが自動的に選択されます。

対処方法: 省電力が重要な場合は、上記のように server balanced power の電力設定を調整できます。ASPEED ディスプレイドライバをダウンロードしてインストールすると、サーバーでスタンバイモードを利用できるようになります。

イベントビューアでシステムエラーイベント ID 1003 が報告される (6658446)

Windows 2003 (32 ビット版) が動作している Sun Fire X4240 サーバーの場合、ハードウェア RAID を装着した状態で長期の過負荷ストレージストレス条件のあとにシステムエラー (ID 1003) が生成される場合があります。

対処方法: この問題が発生した場合は、SAS コントローラと指定されたシステムディスクのディスクストレス負荷を減らします。

MegaRAID Storage Manager (MSM) の 注意事項

次の注意事項は、MegaRAID Storage Manager (MSM) が動作している Sun Fire X4140、X4240、および X4440 サーバーに適用されます。

- 「MegaRAID Storage Manager (MSM) の「位置特定 LED」機能を使用すると、IPMI SEL ログにフォルトイベントが記録される (6595106)」 (46 ページ)
- 「新しい RAID を作成すると、進行中の別の RAID1 再構築プロセスがリセットされる (6611168)」 (47 ページ)
- 「外部ディスクを取り外したとき、取り付けられているディスクのリストが更新されない (6607859)」 (47 ページ)
- 「リブート後に他のホストを選択するメニューを使用できない (6607489)」 (47 ページ)
- 「MegaRAID Storage Manager (MSM) によりオフラインにしたあとでもドライブの緑色の LED が点灯する (6606693)」 (48 ページ)

MegaRAID Storage Manager (MSM) の「位置特定 LED」機能を使用すると、IPMI SEL ログにフォルトイベントが記録される (6595106)

Sun StorageTek SAS 8-Port Internal Host Bus Adapter (LSI 3081E-S ベース)、部品番号 SG-XPCIE8SAS-I-Z または SG-PCIE8SAS-I-Z でサポートされる MegaRAID Storage Manager (MSM) 設定ユーティリティには、オレンジの障害 LED など、ディスクドライブ LED を点滅させる「位置特定 LED」機能があります。この機能を使用してドライブを識別できます。ただし、ILOM サービスプロセッサは障害 LED のアクティビティをモニタするため、オレンジの障害 LED がドライブで点滅しているを示すエントリが IPMI SEL ログに記録されます。

対処方法: ディスクドライブで MegaRAID Storage Manager の「位置特定 LED」機能を使用するときは障害 LED SEL ログメッセージを無視してください。

新しい RAID を作成すると、進行中の別の RAID1 再構築プロセスがリセットされる (6611168)

MegaRAID Storage Manager (MSM) を使用して新しい RAID を作成すると、別のミラー RAID の再構築プロセスが 0% にリセットされます。

対処方法: 再構築/再同期プロセスが完了してから、新しい RAID ボリュームを作成してください。

外部ディスクを取り外したとき、取り付けられているディスクのリストが更新されない (6607859)

SLES 10 SP1 が動作しているシステムでは、サーバーから外部ディスクを取り外したあと、MegaRAID Storage Manager (MSM) でそのディスクが引き続き取り付けられているものとしてリストに示されます。外部ディスクとは、古い RAID 設定情報を含んでいる可能性がある交換ディスクです。

対処方法: リストを更新するには、F5 キーを押します。これにより、取り付けられているすべてのディスクが再スキャンされます。

リブート後に他のホストを選択するメニューを使用できない (6607489)

SLES 10 SP1 が動作しているシステムでは、MegaRAID Storage Manager (MSM) の初期インストール後に、管理対象ホストの一覧からホストを選択できるメニューがあります。ただし、システムをリブートして MSM を再起動すると、ホストリストメニューを利用できません。代わりに、ログイン画面にローカルホストのみが表示されます。

対処方法: この問題に対処するには、MSM ソフトウェアのアンインストールと再インストールを行い、システムをリブートする必要があります。

MegaRAID Storage Manager (MSM) によりオフラインにしたあとでもドライブの緑色の LED が点灯する (6606693)

一般に、ドライブをオフラインに設定すると、青 (取り外し可能) またはオレンジ (障害) の LED が点灯し、緑の (OK) LED が消灯します。ただし、MegaRAID Storage Manager (MSM) を使用してドライブをオフラインにすると、ドライブステータス LED は緑色のままになり、サーバーがオフラインにした物理ドライブがどれかを識別するのが困難になります。

対処方法: オフラインドライブを識別するには、別の方法を使用する必要があります。

ドキュメントの修正点

ドキュメントの修正点を下に示します。

この注意事項に加え、他のセクションで説明されている次の注意事項を参照してください。

- 「LED の動作がドキュメントの説明と異なる (6580675)」 (10 ページ)
- 「ILOM ドキュメントの場所」 (24 ページ)

『Sun Integrated Lights Out Manager 2.0 ユーザーズガイド (補足)』に本製品には適用されない情報が掲載されている

『Sun Integrated Lights Out Manager 2.0 ユーザーズガイド (補足)』は、広範囲の x64 サーバーを対象としています。このため、このドキュメントの一部の情報は SunFire X4140、X4240、および X4440 サーバーに適用されません。

次の表は、これらのサーバーに適用される『Sun Integrated Lights Out Manager 2.0 ユーザーズガイド (補足)』のトピックを示します。他のすべてのトピックは、適用されません。

表 1 Sun Fire X4140/X4240/X4440 サーバーに適用されるトピック

トピック	PDF の ページ	ページ
「Maintenance」->「Configuration Management」ウィンドウの説明の改訂	13	9
ILOM 構成の破壊 (回避方法 2)	17	13
文書の記載の誤り: 「CLI を使用した ILOM の既存の IP アドレスを編集する」の指示の誤り	22	18

